

# A 小 学 校

## 一 昨年度の全校体育の実践と反省

### 1 本校児童の体力の現状

項目 学年	新体力テスト実施項目							
	握力	上体起し	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフト投げ
小1男子								
小1女子								
小2男子								
小2女子								
小3男子								
小3女子								
小4男子								
小4女子								
小5男子								
小5女子								
小6男子								
小6女子								
上回った数	12	6	6	11	8	11	10	6

全国平均より上回っている項目数は、70項目で全体の72.9%である。

これは一昨年度より、新体力テストをもとにした体力向上プランを進めてきた成果であると考えられる。

しかし、「持久力」「体の柔軟性」「投げる力」については、課題があることがわかった。また、これらの体力については高学年になるほど、得点が低くなっていることも分かった。

### 2 昨年度の全校体育の実際

#### (1) 新体力テストの実施：4月

##### 新体力テスト前の動機付けと新体力テストの実施



「新体力テスト」への動機付け



「反復横跳び」に取り組む4年生



「立ち幅跳び」に取り組む5年生

#### (2) 課題の把握：5月

##### 学年ごとの結果の提示と課題の把握



プレゼンで結果を全校に伝える



結果の一覧から傾向を読み取る



児童に問いかけ課題を設定する

##### 個人結果の通知と課題設定

・体力テストの個人票を作成・配布し、全国と比較できるようにする。

体力テスト 個人票		5年 1組 男子 3番								総合評価	
種目	握力	上体起し	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフト投げ	合計	総合評価	
単位	kg	回	cm	回	回	秒	cm	m			
個人記録	21.0	18	32	43	33	9.9	140	23			
得点	8	7	6	8	6	6	5	6	52	C	
学年平均	17.0	17.0	20.7	38.7	35.7	12.8	116.7	14.3			
得点平均	6.7	6.7	3.0	7.0	5.0	4.3	3.7	4.3	40.7	E	

・ワークシートに個人票を貼り付けて目標を記入できるようにした。



#### (3) 課題解決に向けた運動の紹介と実施 期：5月～7月

期：9～11月

##### 持久力を高める運動の実施（下の写真は運動種目の一部）



レッツ！持久力



シャトルらんらんりレー



コロコロ持久力

投げる力を高める運動（下の写真は運動種目の一部）



ハイパーロケット！



ビック・ストラックアウト！



ストラックアウト

(4) 健康月間の実施  
活動の実際とその様子

・体力を高める運動の場の設定と実施

・身体（身長・体重・視力等）の測定場所の設定と実施



チャレンジランド



ヘルシーランド



・生活習慣等の健康に関わる資料の作成及び掲示  
・先生の“わたしのけんこうワールド”

3 成果と課題

(1) 新体力テストの結果から

新体力テストの総合評価における段階ごとの人数の割合は、A段階32%、B段階32%、C段階24%、D段階10%、E段階2%であった（全校児童59名中の割合）。秋は、春の結果よりもほとんどの種目で得点が高くなり、各学年とも多くの種目で全国平均を上回った。全校の傾向を見ると、低学年は「筋力」高学年男子は「持久力」高学年女子は「投げる力」に課題があることが分かった。

(2) 成果

体力テストの結果をもとにして児童の課題意識に合った運動を提示し、実践したことにより、運動に意欲的に取り組み、体力の向上を図ることができた。

10月に健康月間を設定し、様々な運動の場を設定することで休み時間も意欲的に体を動かすことができた。また、身体測定の日や“健康もの知りクイズ”の場を設定することで、児童が自分の身体の実態を知り、健康な体づくりに向けた意識を高めることができた。

(3) 課題

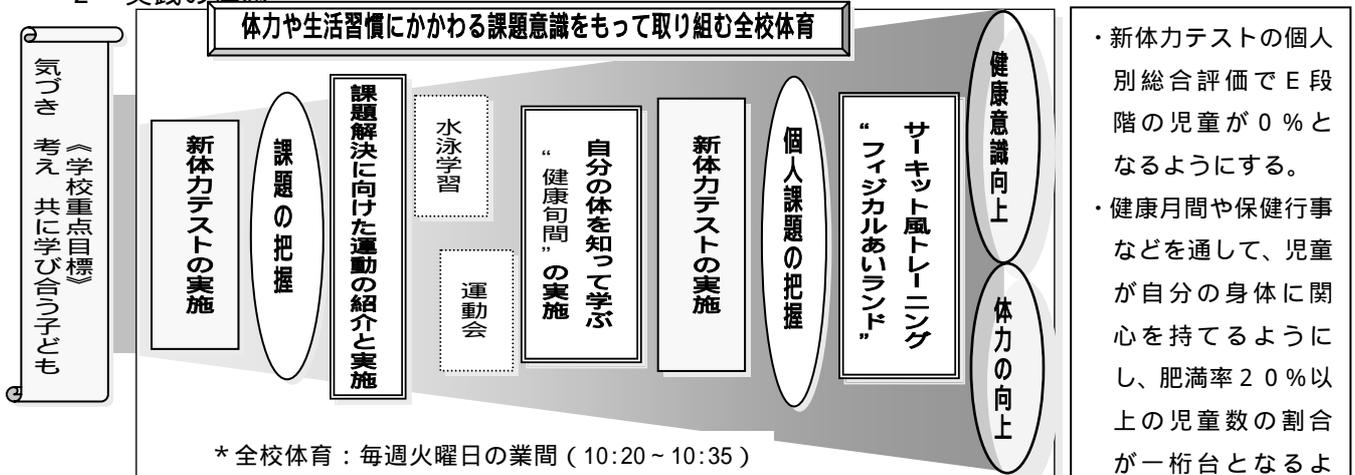
運動への興味・関心をさらに高め、週1回の全校体育にとどまらず、体を動かすことが日常化（休み時間や放課後、家庭における運動の実践）する方策を考えていく必要がある。

二 今年度の全校体育の重点：「体と心をさらに健康にしていこう！」

1 今年度の重点

- (1) 体力や生活習慣にかかわる課題意識をもって取り組むことのできる全校体育
- (2) 「体づくり運動」を中心とした体力向上と動きの習得を図る全校体育
- (3) 健康に関する理解を深めながら体力向上の意識を高めていく全校体育

2 実践の構想



3 実施後の評価

- ・新体力テストの個人別評価と学年傾向、全体傾向の公表（春・秋の2回）
- ・3学期のヘルシークラブにて評価（養護教諭）

# B 小 学 校

## 1 本校児童の体力の現状

- ・ 全校トレーニングで『からだほぐし運動』を取り入れ心と身体の関わり合いを中心に行なった。
- ・ 一部連学年での学習を取り入れ、チーム内で作戦を立てるなど、関わり合いの活動や振り返りができるようになってきている。学級が少人数のため、連学年で行うことによりチームでの試合が意欲的にできる。
- ・ 体力テストから、ボール投げの力が高まってきていることがわかる。各教室にボールを配布して日常的にボールを使うことで高まってきた面がある。（新体力テストの結果も向上）
- ・ XC スキーの学習を意欲的に行い、積極的に大会に参加している。

## 2 昨年度までの取り組みの概要と評価（成果と課題）

### ①取り組みの概要

- 全校児童が意欲的にマラソンに取り組めるカードを用意して、年2回重点的に行なった。
- 放課後、校庭開放を行い校庭で自由に運動できるような時間を確保した。
- 地域の特性を生かし、クロスカントリースキーを全校で取り組んだ。スキークラブは朝8時から開始し、クラブのある火・木・金の1校時に体育の学習を設定し、指導者を招いて充実した学習時間を確保した。

	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横跳び		20mラン		50m走		立ち幅跳び		ボール投げ	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1年	0	0		0	0									0		0
2年	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年	0	0	0	0			0	0	0	0					0	0
4年	0	0	0	0	0			0	0	0			0	0		0
5年	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	0
6年	0	0		0	0		0	0	0		0	0		0	0	0

### ②評価

- 5月・10月に校庭や学校裏の田んぼコースで意欲的にマラソンをしている姿が多く見られた。
- 校庭開放で、ボール運動、鉄棒などに親しむ姿が見られた。
- 3年以上の大多数がスキークラブに加入し、意欲的に練習に取り組んだ。専門の指導者による丁寧な指導で、それぞれの児童が目標を持って基礎・基本を大事にして学ぶ事ができた。

### <新体力テストと結果の活用について：結果からの考察>

#### <本校児童の全国・県との比較>

- ※ 本校の標本数が少ないため、平均同士の比較のみではいいきれない点があるをご理解ください。
- 握力：全学年において全国平均以上。値そのものも大きく超えていて腕や手の筋力は発達していることが伺える。
  - 上体起こし：学年によってまちまちである。学年によって、腹筋の発達に差がみられる。
  - 長座体前屈：学年が上がると全国・県平均を下回るようになってきて、柔軟性がやや劣る傾向にある。
  - 反復横跳び：多くの学年で全国平均を上回り、敏捷性に優れている学年が多い。
  - 20mシャトルラン：ほとんどの学年で県・全国平均を上回っている。平均値が10回以上上回っているところもあり、持久力がかなりあることが伺えるが、標準偏差の値が大きく、個人差が大変に大きいということもいえる。
  - 50m走：ほとんどの学年が県・全国平均とほぼ同じくらい、又はそれを少し上回る値であった。昨年度はほとんどの学年で下回っていたところから、昨年度から伸びた点の一つといえる。
  - 立ち幅跳び：学年によって県・全国平均を上回る学年と下回る学年に分かれる。瞬発的な脚力に劣ることや、身体全体の使い方が上手ではないことがいえる。
  - ソフトボール投げ：全ての学年で全国平均を上回り、10m以上も上回る学年もあるなど、昨年度の伸びに続き、さらに伸びている種目である。多様なボールの購入やクラスへのボール配置などによるボールを使っただけの運動量が増えてきていることが一因といえるかもしれない。長野県平均も、昨年度ほとんどの学年で全国平均を下回ったのが、本年度は大きく上回る学年が多くなってきている。

#### <今後に向けて>

- ・ 本校の平均が、全国平均や県平均に対して上回る種目が多くなってきていることはいえるが、標本数が少ないため、一人の飛びぬけた記録が平均に大きく影響するので、平均だけでなく個人の体力に目を向けて指導する必要がある。
- ・ ボール投げの力は毎日の遊びの中で繰り返し投げることにより培われるものも多いことが、一昨年からの平均の大きな伸びについていえそうである。
- ・ 個の実態に合わせて、学級で柔軟運動や上半身と下半身を連動させて行う運動を取り入れていきたい。
- ・ 握力や背筋力、持久力の高さは冬のクロスカントリースキーやマラソンなどの取り組みに起因すると思われる。
- ・ 特色ある活動として今後も大切にしたい。

### 3 今年度の取り組み

#### (1) 具体目標

- 体カテストの総合評価 C 以上の児童の 85% を維持もしくは向上を目指す。
- D・E 評価の児童を 15% から 10% に引き下げを目指す。
- 自分や友だちの心や身体をほぐして、からだをうごかすことの楽しさや心地よさを高める。

#### (2) 内容と方法

#### 朝のトレーニングを通して（火、金曜日朝 8：30～8：45）

##### A：『トレーニング』：全校で取り組む体づくりの運動（金曜日）

- ① 冬のスキー学習に向けて「走る」運動を中心に、年間を通して自主的に体づくり運動に取り組める環境作り。トレーニングの時間だけでなく、学年ごとの取り組みへ。（なわとび・マラソンカードの活用）
- ② 新体カテストの結果を参考にし、トレーニングを実施する。（6～11月）
  - マラソンコースを利用した持久走・学年ごとや学年を越えた長縄、おにごっこなど（持久力）
  - 固定遊具などを使った運動・サーキットトレーニング・力試しの運動（筋力）・ストレッチ（柔軟性）
  - 運動会の練習と兼ねてのフォークダンス、リズムダンス（巧緻性・平衡性）
  - 校内マラソン大会を開きそれに向けての持久力の向上を目指す。
- ③ 授業と連動し、クロスカントリースキーを楽しみ、体力を養う。（1月～2月）
  - 3～6年は朝のトレーニングから1時間目まで通して、クロスカントリースキーを行う。
  - 1～2年は、クロスカントリースキーだけでなく、雪合戦、そり遊び雪遊び等も活用し体力を養う。

##### B：『なかよし運動』：全校で取り組む体ほぐしの運動（火曜日）

<〇〇小学校の重点＝『関わり合い』>



- ① 昨年まで年度当初朝のトレーニングの時間に行っていた体カテストを、連学年の体育の時間に充実して行えるようにし、年度当初は『なかよし運動』を中心に行っていく。
- ② 縦割り班を活用し、異なる学年と体や心を触れ合う事のできる活動も取り入れる。
- ③ 連学年や学級での活動にも取り入れ、体を動かすベースとなる心の育成を図る。

#### 新体カテストの実施（4月～5月）：本校児童の体力の傾向を把握し指導に生かす

- ① 連学年で協力して授業時間を活用して実施。
- ② 結果の処理：パソコンを利用し、個人・地区平均のデータを入力処理し、各学級及び各自に結果を配布。
- ③ 結果を元に朝の全校トレーニングや体育の学習の内容を検討。

#### 各種大会行事への参加

##### ① 実施内容

- クロスカントリースキークラブ（希望者）・対外試合（スキー、陸上）への参加
- 町主催のマラソン大会
- 校長会主催のスキー大会（4・5・6年全員）への参加

##### ② 実践例

<クロスカントリースキークラブ>

- 11月中旬から3～6年生を対象に希望者を募り、火・木・金曜日毎朝8時から30分間練習を行う。大部分の児童が参加している。参加していない児童への働きかけや魅力ある活動の持ち方に課題。
- 雪が降るまではマラソン・縄跳び・陸上などのトレーニングを行い、雪が降ってからはスキー場を利用したトレーニングを行う。
- 上級生の技能に学んだり、ワックスを協力して塗ったりする等、縦の関係が育ってきている。

### 3 評価計画

- ① 新体カテストの結果を全校へ配布し、指導の参考にする。
- ② 個人の記録ののびを児童に還元して、それを励みとして、更に取り組めるように目標を持たせる。
- ③ 体カテストの結果を体育科で分析し、必要な運動能力は何かを割り出し、それに応じた運動の時間の確保や、運動能力を高めるための工夫した運動を取り入れてのトレーニングや、運動の習慣化を行う。
- ④ 体ほぐし振り返りカードで児童が自分の心の状態に気づいたり、教師が子供達の心の状態を受け止める参考にしたりできる。

# C 小 学 校

## 1. 本校の児童の体力の現状 全国平均値との比較一覧表

(○は上回った種目)

	新体力テスト実施項目								身長体重		上回った
	握力	上体起 こし	長座体 前屈	反復横 跳び	シャトル ラン	50m走	立幅 跳び	ソフトボ ール投	身長	体重	
小1男子		○	○			○					3
小1女子		○				○			○	○	2
小2男子			○	○		○					3
小2女子		○	○	○		○				○	4
小3男子		○	○	○	○	○		○	○		6
小3女子		○		○	○	○					4
小4男子	○	○	○	○		○		○	○		6
小4女子		○		○							2
小5男子						○			○		1
小5女子			○	○		○					3
小6男子	○	○	○	○	○			○	○		6
小6女子		○	○								2
上回った種目数	2	9	8	8	3	9	0	3	5	2	42

### (1) 分析

- ① 全国平均と比較してみると、値が上回っている種目は、42種目で全体の43.8%である。全国平均値と比較すると上回っている具体的な種目は上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、50m走下回っている種目は、握力、シャトルラン、立幅跳、ソフトボール投げである。全国平均と比較して上回っている学年は、小2女子、小3男女、小4男子、小6男子で、下回っている学年は、小1男女、小2男子、小4女子、小5男女、小6女子筋力や持久力が低い傾向にある。朝行事の時間に計測を行ったため、まだ体が起きていなかったりしたことも、記録がひくくなった原因かもしれない。

## 2. 昨年までの取り組みの概要と評価(成果と課題)

### (1) 昨年までの取り組みの概要

「心も体もたくましく、楽しみながら体力の向上を目指す子どもたち」をテーマとして、教科体育や体育的行事・体育的活動の充実や体育的環境整備にあたった。

### (2) 成果と課題

- ・朝行事の「スポーツ」の時間を毎週1回にし、冬季期間も行った。雪や霜でグラウンドが使用できなくなるまでは、「大縄跳び」や「短縄跳び」を中心にクラスで目標回数をたて、目標の達成ができるように取り組んだ。また、「ながのスポーツスタジアム」の種目である『クラスで8の字ジャンプ』を各学年できそったり、『ボールパスリレー』を行った。しかし、回数を向上させようとする意識が薄く、「どうしたら記録がよくなるか」と考える姿が見られなかった。
- ・年度当初は楽しみながら体力アップできるように全校ゲームを取り入れた。体育が苦手な児童も楽しみながら体育に参加できるようにした。1年～6年生が共通して楽しめる「鬼遊び」「力試しの運動」を中心に行った。1年～6年みんなが楽しんで取り組めるゲームを考えるのが難しい事が課題点でもある。
- ・秋のマラソン大会に向けて、3週間ほど前から、自主練習を提案した。児童が毎日練習に取り組めるようにカードを工夫し児童委員会でご褒美印を付いたり、毎日走った人を表彰したり、音楽テープを流したりした。
- ・1～3月は、リズムダンスを新たに取り入れた。初めは恥ずかしがっていた児童も、回数を重ねるうちにだんだん体を動かすようになった。自分たちのオリジナルダンスを取り入れて踊る場面では、笑顔で踊る姿が見られた。

### (3) 現在の児童生徒の状況

- ・朝や休み時間には、校庭や体育館でサッカー、キックベースボール、野球をする高学年。縄跳びや一輪車、おにごっこや遊具で体を動かす低学年の姿が見られる。また、ソフトボールやドッジビーを自由に使用できるように準備したことで、気軽に運動に取り組む姿が見られる。低学年児童の中には、上級生に混じってサッカーや野球をする児童もいる。
- ・「キックベース」や「ラケットベース」を授業に取り入れて行うことが種目の楽しさを感じ取る機会となっている。それがきっかけとなり、休み時間に、その種目を行う姿も見られる。
- ・保護者が特別講師となり、縄跳びや野球をやっているクラスがある。

### 3. 今年度の取り組み

テーマ 心も体もたくましい 子  
～楽しみながら体力の向上を目指す子どもたち～

#### (1) 具体的な目標

- ・全校体育は週1回おこなう。年間計画を職員会に提案し、全職員が共通意識で全校体育に取り組めるようにする。
- ・毎年、新体力テストの実施し、結果を職員会に提案する。学級の実態をつかみ、毎日の生活に生かせるようにする。(ボール運動、ケンケン競争、うんてい、鉄棒など体力テストで低かった値を高めるために、効果的な活動の紹介)
- ・児童会に提案し「休み時間は、外で遊ぼう月間」や運動委員会を中心に、月ごとに様々な運動の企画を提案し実践していく。
- ・肥満傾向児童への対策(養護教諭と連携して)

#### (2) 内容と方法

##### ○ 教科体育

- ・めあて学習を大切に。自分のめあてを持ち、進んで学習に取り組める児童になるために、学習カードを活用し、自分の動きや学び方を見つめる自己評価の場を設定する。
- ・自分たちのクラスにあったルールを工夫し、クラス全員が自分の学習として体育活動に取り組めるようにする。

##### ○ 全校スポーツの取り組み

- ・1週間に一回、朝の活動に全校スポーツを位置づけ、全学年一緒に体力の増進を目指していく。
- ・季節や体育的行事と関連づけ、全校スポーツを実施する。  
(全校ゲーム、マラソン、縄跳び、ボール運動、リズムダンスなど)
- ・各クラスヘッドジビーやソフトバレーボール、ゴムボール、縄跳びなどを配布する。
- ・いろいろな種類のボールや児童が興味を持つような器具、用具を準備し、使用できるようにする。

#### (3) 体力向上への実践

##### ○ 体育的行事

- ・全学年体力テストの実施
- ・運動会 ・水泳記録会
- ・マラソン大会・そり、スキー教室

##### ○ クラブ活動

- ・ソフトテニス、野球  
サッカー、卓球などの  
クラブを開設

##### ○ 社会体育への参加と協力

- ・村内の各種スポーツ団体への加入
- ・陸上大会などに参加する児童と、練習を一緒におこなう。大会の時にも協力しあう。
- ・村で行われるマラソン大会やウォーキング大会への参加を呼びかける。

##### ○ 児童会(運動委員会)によるもの

- ・ジグザグ走、大縄大会、ドッジボール大会、走り幅跳び大会などを企画し、業間休みに行う。記録賞などを出して、励みにする。

##### ○ 運動用具の活用

- ・各クラスにソフトボールを購入。ドッジビーやラケットなどどの学年の児童も使えるようにする。

##### ○ 縦割り班(本校では「フレンド」と呼んでいる)の活動

- ・毎週月曜日は、朝の活動の「フレンド」を位置づけ1年生から6年生が一緒になり10名ほどの班で遊んだり、物作りをするなど様々な活動を行う。その中で体を動かす活動(鬼ごっこ、ドッジボール)の取り入れるように推進していく。

### 4. 評価計画

- ・新体力テストに関しては、結果を職員会に提案し、児童の体力の実態を職員全体で考えて行くようにする。また、機会があれば学校保健委員会で提案し、学校医の先生方、保護者と児童の実態について話し合う。
- ・昨年度の新体力テストとの比較を行い、児童の実態の把握に努める。さらに、つけたい力を体育係、養護教諭と話しあい、分析し全職員に呼びかけていく。

# D 小 学 校

## 1、本校の生徒の体力の現状

	新体力テスト実施項目							
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ
小1男子	○	○		○			○	
女子	○	○		○				
小2男子	○		○	○	○	○	○	○
女子	○		○	○			○	○
小3男子		○	○	○	○			○
女子	○	○	○	○				
小4男子	○	○	○	○	○	○	○	○
女子	○	○	○	○	○	○	○	
小5男子	○	○	○	○	○	○	○	○
女子	○		○	○	○	○	○	
小6男子	○	○	○	○	○	○	○	
女子	○	○	○	○	○		○	

### ①昨年度までの取り組みの概要

#### ○朝のマラソン

- ・世界一周歩け走ろう運動のカード（長野県教育委員会）に取り組み、全校児童が意欲的に取り組んでいる。（学年、クラスによって取り組み方にやや差がある）  
多くの子が、一周、約450メートルのコースを2周くらい、走っている。
- ・朝来た児童からどんと走っている。朝から元気で、いい雰囲気だと思う。
- ・100日達成、200日達成・・・などでもらえる達成賞を励みにしている。

#### ○朝のエンジョイタイム（時期によってやり方を変えた）

- ・各学級 ・兄弟学級 ・地区別 ・縦割り  
（内容）・グラウンドを使って…鬼ごっこ、あみ投げた、缶けり、けいどろ、色鬼、手つなぎ鬼…
- ・グラウンドの周りで…登り棒、鉄棒、タイヤ、大縄、短縄、うんてい、平均台
- ・マラソン（持久走）大会に向けて

#### ○体力テストの実施（良かった記録の紹介…体育委員の洗馬小ギネスブック）

#### ○体育委員会によるクラスマッチの実施

- ・年間、3回、2時間目後の休み時間をつかって、行った。種目は委員会で決めているが昨年度は、「大縄跳び、ドッジボール、王様じゃんけん」

### ②成果及び課題

- ・朝の活動でエンジョイタイムを続けていることで、グラウンドで遊んでいる児童が年間を通して多い。体力も高まっている。
- ・鬼ごっこを行うことが多いが、よけられずにぶつかったりする児童が多かったが段々減ってきた。機会をとっていくことが大切だと思う。
- ・体力テストの結果から、各学年に応じて授業の中身を検討した。

シャトルラン（持久走）の結果は向上→普段のマラソンカードの取り組みの成果  
△朝のマラソンは、進んで続けている児童と、苦手ななるべくやりたくない児童の差が出ている。

△ボール投げの結果から→投げる力をつける内容の検討。扱う授業時数の増加。  
△女子の成績がやや落ちてきている。高学年になるにつれて、自主的に体を動かす女子が減っている。(休み時間の遊びや陸上部の活動など)

### ③現在の児童生徒の状況

- ・今年度も朝のマラソンやエンジョイタイムを進めていく。ひまがなく、忙しい朝を過ごしていて、充実した生活につながっている。
- ・現在、陸上クラブが市、中信、などの大会に向けて、毎朝、7時30分から8時10分まで練習している。

## 2、今年度の取り組み

### (1) 具体目標

- ・朝マラソンへの参加率をさらに10パーセント、向上させる。
- ・体力テストで、女子の、全国平均値を上回る種目を半分以上に増やしていく。(陸上部、水泳部などの課外活動や運動クラブへの勧誘など、運動する機会を増やしたり、日常的に女子の外遊びを盛んにしていく)
- ・エンジョイタイムの充実(今年度も朝の時間を帯にとっていく)

### (2) 内容と方法

#### ○朝のマラソンコース(～8時10分)

- ・100日マラソンカードに取り組んでいる。既に1年生から毎年取り組んでいて、800日達成した児童もいる。
- ・体育委員会でマラソンコースの距離を測り、看板を立て、楽しく走れるように工夫した。委員が率先して走るようにする。
- ・カードを達成した児童を、体育委員がお昼の放送で流す。

#### ○朝のエンジョイタイムの活動(8時20分～8時35分)

※児童のエンジョイの計画をもとに、各学級でやることを考えたり、教師もつける力を工夫しながら取り組む。

- ・教師も児童と一緒に活動する。
- ・ともすれば児童のやりたい物にかたよる傾向もある。ドッジボール、キックベースなどは、ルールを工夫する必要もある。
- ・登り棒、鉄棒、うんてい、大縄など、児童につけたい力を考えながら、毎朝活動していく。今年は、優先学年を振り分け、どの学年も鉄棒に取り組むようにする。
- ・月ごとに、エンジョイタイムの形態を、学級あるいは学年、兄弟学級、地区別、縦割り学級などを変えて、いろいろな友だちと運動を楽しむ態度を育てていく。

○筋力を鍛えられる運動を、体育の学習や、全校体育、エンジョイタイムの中に取り入れていく。(例3の1 全員が逆上がりをできるようにしよう。学年独自で朝マラソンの300日達成賞を出す)

○「体育の学習」の教師用指導書を各学年、購入して、授業に活用していく。体力テストの結果を考察して平均を下回っているような種目については、どんな運動を取り入れていったらよいか考え、実践していく。

○陸上クラブや水泳クラブへの参加をよびかけ、大会へ参加するしないに関わらず、運動をする機会を増やしていけるようにする。

### (3) 評価計画

○できるだけ毎年、体力テストを行って、前年度の取り組みの評価をしてその結果を基に次年度の活動の方向を考えていく。

○各学級から、評価を出していってもらおう。